

富山県高岡市
福岡町埋蔵文化財分布調査報告V

2007年3月
高岡市教育委員会

序

平成14年度以来、旧福岡町域を対象に5年計画で進めてきた詳細分布調査も最終年度を迎えて、一連の事業としては最後の報告書を刊行することとなりました。

この間、遺跡の取扱いについては、新たに活用の視点が積極的に導入されるようになるとともに、民間調査機関による発掘調査の実施など、埋蔵文化財行政を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。また、市町村合併による地方自治体の再編についても、調査を開始した当初は予想されなかったことといえます。

いうまでもなく遺跡は過去の歴史を経てその場所に存在しているものであり、埋蔵文化財を取り巻く行政上の仕組みがどのように変化しようと、遺跡そのものは変わらずそこに存在しているものといえます。こうした遺跡の所在を少しでも明らかにするために開始した詳細分布調査も、当初は開発事業との円滑な調整を図ることを主たる目的としておりましたが、文化財を活かしたまちづくりを進める上で、その基本的資料を得る性格も併せ持つようになってまいりました。本書がこうした利用にも供されるようになれば幸いです。

最後に、調査の実施にあたり御協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

高岡市教育委員会

教育長 村井和

例　　言

1. 本書は高岡市教育委員会が国庫補助を受けて実施している高岡市福岡町内遺跡詳細分布調査の5年目（2006年度）の調査報告である。
2. 調査は、高岡市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査事務局は高岡市教育委員会文化財課に置き、主任栗山雅夫が調査事務を担当し、文化財課長 笹島千恵子が総括した。調査担当者は次のとおりである。

高岡市教育委員会 文化財課 主任 栗山雅夫

4. 本書の編集・執筆・写真撮影は、高岡市教育委員会文化財課 栗山が担当した。

5. 本書の図版の遺物番号は実測図・写真図版ともに統一している。

6. 現地調査・資料整理・報告書作成にあたって、下記の参加を得た。

中田郁子

7. 採集遺物及び記録資料は、高岡市教育委員会が保管している。

8. 参考資料として掲載した渕ヶ谷地蔵の調査（岩崎照栄氏・西井龍儀氏・宮田進一氏調査）については、西井龍儀氏の御協力のもとでその成果の一部を紹介することができた。調査者の方々には、記して謝意を表したい。

目 次

序 文

例 言

目 次

第1章 はじめに

第1節 位置と地形 1

第2節 調査に至る経緯 1

第3節 2006年度調査地区の概要

I 地名各説 3

II これまでの遺跡調査成果 5

第2章 調査概要

第1節 調査の経過 6

第2節 調査の成果

I 遺跡各説 7

II 小 結 13

III 参考資料 15

写真図版

図版 1 航空写真(1) 五位山地区全景

図版 2 航空写真(2) 沢川集落全景

図版 3 遺跡写真(1) 沢川地区

図版 4 遺跡写真(2) 五位地区

図版 5 遺跡写真(3) 小野地区

図版 6 遺跡写真(4) 栃丘地区

図版 7 遺跡写真(1) 西明寺地区

図版 8 遺物写真

図版目次

第1図 高岡市福岡町位置図 1

第2図 調査地区割図 2

第3図 2006年度分布調査対象地位置図 4

第4図 小野ワラビ畑出土:遺物実測図 5

第5図 渕ヶ谷地蔵位置図 17

第6図 渕ヶ谷地蔵の字状土器略測図 17

第7図 渕ヶ谷地蔵実測図 17

第8図 2006年度分布調査成果図 21

付 図 2006年度分布調査結果概要図

福岡町埋蔵文化財包蔵地位置地図

表 目 次

第1表 調査遺跡一覧 14

第2表 福岡町内遺跡一覧 19

第1章 はじめに

第1節 位置と地形

高岡市は富山県の北西部に位置しており、北が氷見市、東を射水市、北西は石川県宝達志水町・石川県津幡町、南西は小矢部市、南を砺波市と接している。平成17年11月1日には、旧福岡町と合併して新たに高岡市が成立し、人口181,802人（平成18年12月末現在）を数える富山県第二の都市となっている。行政区画は、東西約24.5km、南北約19.2km、面積は209.38km²となり、富山県全体の面積に占める割合は約5%である。また、富山県中央部には、呉羽丘陵と呼ばれる丘陵が南北に走っており、県を東西に二分する役割を果たしている。ここを境として、東部は「呉東」西部は「呉西」と呼ばれており、呉西の中心都市が高岡市となる。

このうち、調査対象としている福岡町は市内西部から北西一帯にかけて位置している。福岡町の総面積は約59km²であるが、そのうち約41km²が山間部となっており、今年度の調査対象地である五位山地区がその多くを占めている。この地区は、市内最北西部にあって能登半島に続く宝達山系と連なる沢川地区と、北東の平野側に向かって200m未満の丘陵が連なる西山丘陵まで含む渕ヶ谷地区で構成されている。標高いえば、沢川集落は標高約350mのところにあり、最も平野に近い西明寺集落で約30mとなる。なお、西山丘陵一帯の平野部を含む地域は、東流する小矢部川の西にあるという意味から「川西」と呼ばれており、五位山地区も広義では川西に該当する。

当地区には、越中と加賀を結ぶ俱利伽羅峠とは別に能登へと通じる最短ルートがあり、佐々成政と前田利家が争った天正12年（1584）の末森城の合戦の折には、佐々方がここを通る道すがら沢川の田畠兵衛によって道に迷わされた話は有名である。

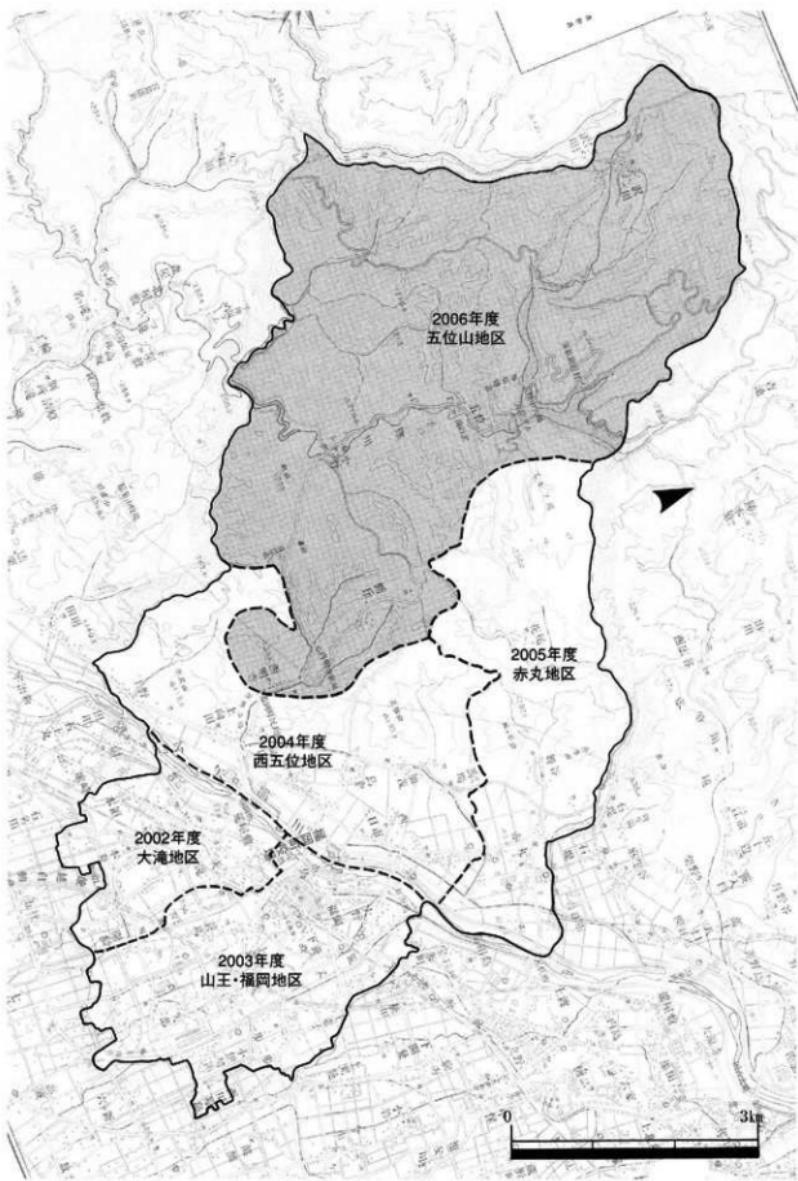
第2節 調査に至る経緯

高岡市福岡町内の埋蔵文化財包蔵地は、昭和47年（1972）に富山県教育委員会文化課によって発行された『富山県遺跡地図』と平成5年（1993）に富山県埋蔵文化財センターが刊行した『富山県埋蔵文化財包蔵地図』により遺跡の把握と周知に用いてきた。この間、遺跡数は39箇所から87箇所に増加しており、平成5年以降新たに追加された遺跡を加えると詳細分布調査着手前には107箇所となっている。その後、分布調査によって新たに発見された遺跡が加わり、本年度調査前までに確認された遺跡数は、113箇所である。

『富山県遺跡地図』以降の遺跡の明示方法をみると、当初は遺物が採集された場所を示した点表示が大半であったものが、調査成果の積み重ねを経て面表示に変化している。こうした点から面への流れは、開発事業を円滑に進めながら遺跡を保護するうえで不可欠のものといえる。平成14年度から5年計画で実施している詳細分布調査は、面表示による遺跡範囲を高い精度で把握することを目的としており、対象地全域の現地踏査を行うことで、遺跡範囲についてチェックを行うとともに未確認の遺跡がないか調査するものである。



第1図 高岡市福岡町位置図



第2図 調査地区割図 (1/60,000)

第3節 2006年度調査地区の概要

I 地名各説

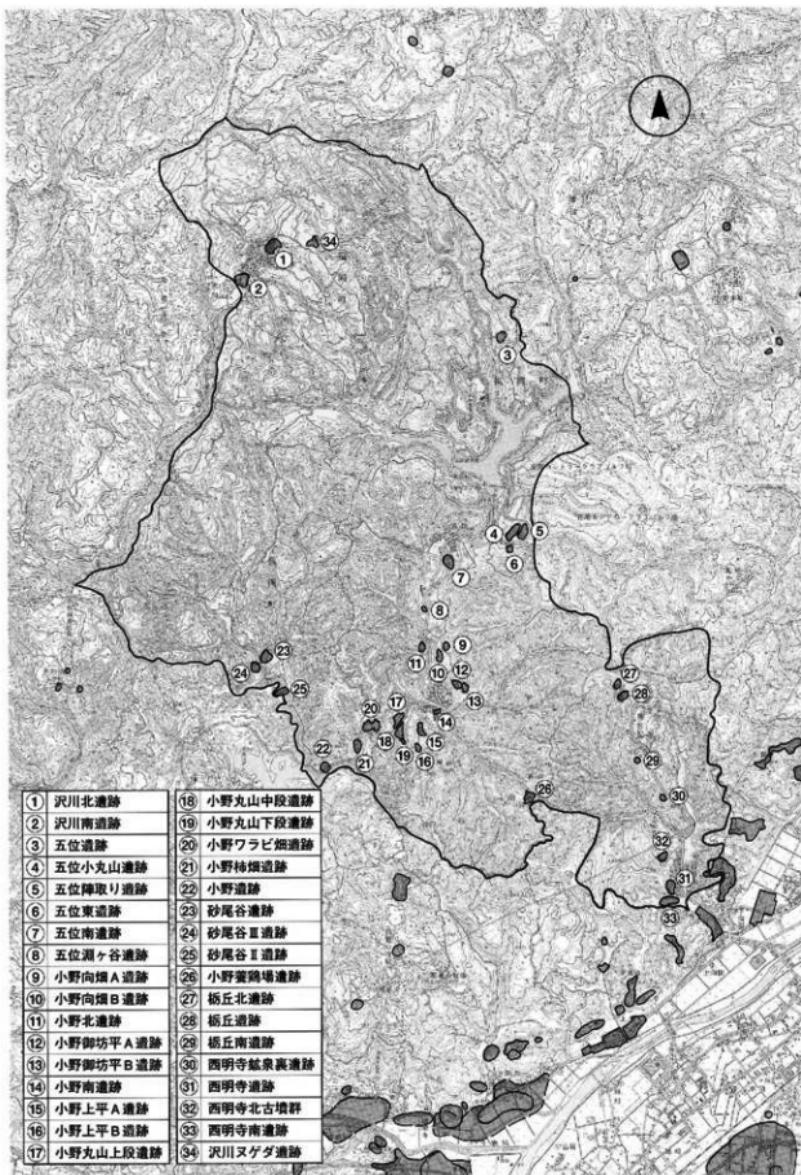
今年度の調査対象地は五位山地区にあたり、自治会組織では西明寺・柄丘・小野・五位・沢川の5地区で構成されている。明治22年（1889）の町村制施行時には、沢川村・渕ヶ谷村・小野村・柄谷村・西明寺村が合併して五位山村が成立している。その後、昭和29年（1954）には福岡町・西五位村と合併して福岡町となり、平成17年には福岡町と高岡市が合併したことから、新たに高岡市の一部となって現在に至っている。

五位山地区には渕ヶ谷小学校があり（現在は休校中）、校下としての名称を用いた渕ヶ谷地区の名で呼ばれることがある。五位山地区的名称は、古代の莊園名である五位庄に由来するものであり、分布調査報告Ⅲで報告した西五位地区と同様である。福岡町の大部分は五位庄に該当する地域にあたり、福岡町加茂にある超願寺所蔵の「越中五位庄由来記」によれば、江戸時代には東西に分かれていた五位庄の「西庄」に五位山地区的各集落名が記載されている。ちなみに、「東庄」には、福岡・山王地区的集落名がみえ、前述した「川西」「川東」の区分名称もこれに倣ったものであると考えられる。

さて、五位山地区は小矢部川の左岸にあって、高岡市とともに、また旧西砺波郡城としても北端部に位置しており、北を石川県宝達志水町と氷見市、東を福岡町赤丸地区と高岡市石堤地区、南を福岡町西五位地区、西を小矢部市と接している。その規模は東西約5.4km、南北約9km、面積が28.49km²あって、福岡町の約半分程の面積を占める計算となる。

福岡町史によれば、五位山村に関係する伝承として以下の事柄が紹介されている。（『福岡町史』福岡町史編纂委員会；1969）

- ① 西明寺は、鎌倉幕府の5代執権にあたる最明寺入道時頼が全国行脚の際に西明寺の小高い丘に立ち寄られた。その滞在中に家臣が死んだため、五輪塔二基を含む塚を作った（市指定史跡「西明寺塚五輪塔」を指す）ことから西明寺と呼ばれるようになった。また、鎌倉とよく似た地形であるとして、時頼が自分の名を集落につけて西明寺と名付けたとも言われており、その記念に建てた供養塔が五輪塔であるとも伝えられている。
- ② 柄丘は、もと「とちくだに」と呼ばれたものが「柄谷」に変化して、旧五位山村が福岡町と合併した際に柄丘となった。「とちくだに」には、古い集落があったが、たびたび水害や地すべりに見舞われたため、現在の下柄丘の場所に移った。
- ③ 承久の乱（1221）の頃、小野葦の子孫に小野良実という人物があり、順徳天皇に従い佐渡に流されたが、島を逃れて皇子と再び倒幕の兵を挙げたものの、戦いに敗れたため現在の小野の城尾山に僧庵を建て、宝治元年（1247）以来、一族と共にこの地に居住した。これは、小野にある西照寺の開基であり、また小野集落の起源もある。小野は始め香野と書いたが、良実にちなんで小野と書くようになったとされる。
- ④ 渕ヶ谷は、子撫川の清流が岩をかむ景観によるものと考えられている。小野と共に古くから集落があり、現在は五位集落がその中心地となる。
- ⑤ 沢川は、川が多く流れ水量が豊富であることからこの名がついたとされる。近世初頭の地すべりに被災後に現在の集落に移ったとされ、旧集落と伝承される付近の水田には蔽屋敷田・ゴボ田・オカネ田の小字が残っている。



第3図 2006年度 分布調査対象位置図 (1/50,000)

II これまでの遺跡調査成果

五位山地区でこれまでに確認されている周知の埋蔵文化財包蔵地は、34遺跡を数える。このうち、30遺跡が散布地であり、集落遺跡が2遺跡、古墳と思われる遺跡が1遺跡、寺院と思われる遺跡が1遺跡となっている。散布地が大半を占めている結果が示すように、これまでに当地区内において本格的な発掘調査が行われたことはなく、正式な報告書が出ている調査事例として挙げができるのは、沢川地区における圃場整備に先立って実施された試掘調査に伴う報告書である。(『富山県福岡町沢川地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』福岡町教育委員会:2001)

沢川地区は福岡町の最も北西にあって石川と県境を接しており、集落の一部は能登沢川と呼ばれ、今も石川県に属している。平成11~12年にかけて実施した分布調査と試掘調査の結果、縄文時代中期前葉から後期に至る遺物が出土した。特に、新たに確認した沢川ヌゲダ遺跡では、能登地域を中心に分布し、後期前葉に位置づけされる気屋式土器がまとまって出土する遺物包含層を確認しており、沢川地区の成立を考える上で重要な成果となっている。なお、現地は、盛土保存によって遺跡の保護が図られている。

さて、『福岡町史』には、昭和44年までに採集された遺物などが紹介されており、五位山地区の遺跡からの採集遺物を知る上で今も基礎資料となるものである。なかでも、小野地内では県内では数少ない旧石器時代の遺物が採集されている。ここでは、同書で紹介されている遺跡について紹介しておきたい。

小野ワラビ畑遺跡：昭和42年5月に搔器、抉入搔器、ナイフ形石器、石刃、小型石刃、剥片石核が出土。

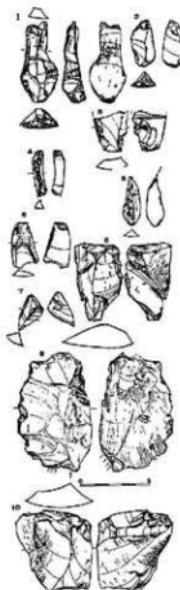
小野向畠B遺跡：ワラビ畑遺跡と同時期にナイフ形石器、石刃が出土。

小野丸山中段遺跡：縄文早期と考えられる橪円形押型文土器が出土している。

五位小丸山遺跡：昭和43年10月に縄文時代中期中頃と考えられる半隆起線による平行双線・渦巻文・爪形文を持つ土器片が数個出土した。

五位小丸山遺跡と同様の土器は小野や柄丘でも出土しており、沢川地区でも昭和37年7月に貝殻文を施す土器が、家屋新築に伴う基礎部分から石器とともに出土したとされている。さらに、昭和41年4月と同43年5月には、福岡中学校社会科クラブの調査によって、砂尾谷から葉脈状文や貝殻文など串田新式に位置づけされる土器片が数十個出土し、石器も確認されている。なお、縄文時代中期に位置づけされる定角形磨製石斧が沢川や小野の遺跡で採集されているほか、五位向畠や小野御坊平、柄丘では石鏃が出土している。

また、西明寺地内では過去の圃場整備の際に完形品に近い珠洲焼の壺が出土し、現在は福岡歴史民俗資料館に収蔵されている。



第4図 小野ワラビ畑
出土遺物実測図
(『福岡町史』より転載)

第2章 調査概要

第1節 調査の経過

調査は、過去4カ年と同様に耕作期間を除く時期に現地踏査を実施した。調査体制は、調査員と調査補助員の2名で調査対象地全域の田畠を踏査し、その手法は下記で示す方法を原則としている。

- ① 遺物の集計は、田畠区画の大小によらず、畦畔で区切られた田畠1枚を最小単位とする。
- ② 踏査の基本動線は、一区画の田畠の外縁部分を周回するものとする。但し、圃場整備等によって通常区画数枚分に及ぶ大きさを持つ水田は、適宜継続するラインを設ける。
- ③ 遺物整理の単位は、田畠1区画とする。
- ④ これまでに分布調査を実施している箇所については、過去のデータを採用することとする。

この調査方針は、詳細分布調査に着手した初年度から一貫して採用している。現地踏査者が2名と少人数である点については、調査費を低く抑えるとともに、遺物採集の精度が個人の能力によって影響を受けることを考慮し、採集誤差を排除することを目的としている。結果的に、広い面積を担当者が受け持つことになるが、現地の地形を体感することは、「埋蔵文化財」という特質を考えると、調査報告書の作成はもとより、遺跡の立地や範囲を検討する上で極めて重要であるととらえている。

田畠の外縁部を周回する踏査動線については、分布調査時に遺物が採集される区域が田畠外縁に集まる傾向を考慮し、基本的には周辺部分を踏査している。

さて、今年度の調査対象地は山間部に点在しているため集落毎の距離は離れている。また、耕作地については、集落から離れた山あいに岩まれている場合が少なくなく、特に沢川地区ではいくつかの谷にまたがって大区画の水出が存在していた。ところが、住民の高齢化の影響もあってか、集落から離れた田畠については、すでに耕作を放棄したところが少なくなかった。従って、現地を確認し、できる限り遺物を採集するよう努めたが、地図上で確認できる耕作地の3割以上は耕作を放棄して相当の期間が経過して草木が著しく繁茂しており、地表面を確認できる状態ではなかった。

遺物の整理については、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世以降の時期に分類して整理を行い、各時期に帰属させた遺物の採集地点を1/5,000の地図上に落として周知の埋蔵文化財包蔵地として扱う遺跡の範囲を検討した。遺跡範囲の決定に際しては、中世以前の遺物採集地点を中心とし、近世以降の遺物の散布状況を参考とした。こうした遺物散布のドットのまとまり具合に加えて、旧地形や小字の分布状況を検討することで最終的な遺跡範囲を絞り込んでいく。

現地踏査は実働にして8Hを費やした。踏査によって遺物を採集した田畠は14枚である。内訳は縄文1点、中世3点、近世以降が23点で総数27点となる。採集遺物の総数は、これまでで最も少ない。これまでには近世以降の遺物が一定数採集されていたが、今年度は生活圏の違いによるものなのか、最近の陶磁器までを含めても田畠にそれらが散布している数は少なかった。

第2節 調査の成果

I 遺跡各説

1. 沢川北遺跡（遺跡番号 422001）：変更無し

沢川集落の中央から西側の耕作地にかけて広がる遺跡である。比較的平坦な地形上にあり、昭和40年頃に縄文土器が採集されている。平成12年には圃場整備事業に伴う試掘調査を実施しており、縄文中期前葉～後期後葉に比定される土器が出土している。なかでも、中期中葉の古府式に分類できる土器が主体となっており、遺跡の中心年代と考えられる。先の調査において分布調査、試掘調査によつて遺跡範囲は括り直していることから、今回の分布調査結果においても遺跡範囲は変更していない。

2. 沢川南遺跡（遺跡番号 422002）：変更無し

沢川集落の北西の県境にあって、能登沢川と呼ばれる集落との間に位置している。現地は標高350m付近の平坦な地形上にあって、畑を主体に耕作地が営まれている。遺物は近世以降の陶磁器に混じって珠洲焼が1片採集されている。

3. 五位遺跡（遺跡番号 422003）：変更無し

五位ダムの北側にあって、ふくおか家族旅行村の北東の山林内に位置している。林道宮の谷線と林道中野口線に挟まれた丘陵斜面に位置している。散布地とされているが、過去の採集遺物は明らかでなく時代等は不明である。

4. 五位小丸山遺跡（遺跡番号 422004）：変更無し

五位集落東側、五位ダム下流近くにあって五位陣取り遺跡と並立して小丘陵上に位置している。遺跡東側では五位集落でも最大級の大きさに区画された水田が営まれている。昭和43年10月には、縄文中期頃と考えられる平隆起線による平行沈線、渦巻文、爪形文を施す土器片が数個採集されている。今回の調査では、近世以降の陶磁器が2点採集された。

5. 五位陣取り遺跡（遺跡番号 422005）：変更無し

縄文時代の散布地とされ、五位小丸山遺跡の東側に位置している。五位小丸山遺跡と同様に畑が営まれており、近世以降の陶磁器が5点採集されている。

6. 五位東遺跡（遺跡番号 422006）：変更無し

五位小丸山遺跡、五位陣取り遺跡とは県道押水福岡線を挟んで南側に位置している。後で紹介する洞ヶ谷地蔵・コの字形土壙が所在する丘陵の北側裾部にあたる。過去に縄文時代の遺物が採集された可能性があるが、詳細は不明である。

7. 五位南遺跡（遺跡番号 422007）：変更無し

五位集落の南西端にあり、県道小野・上渡線及び子撫川の東側に位置している。現地は、子撫川がヘアピン状に丘陵裾部を巻き込んだ場所にあたる。遺跡の時代は、採集遺物がなく不明である。

8. 五位渕ヶ谷遺跡（遺跡番号 422008）：変更無し

渕ヶ谷小学校の南にあって、県道小野・上渡線の東側に隣接する丘陵斜面に位置している。斜面を登ったところに平坦面があり、耕作地が存在していたようであるが、既に荒廃しており藪に覆われていた。このため採集遺物はなく、遺跡の時代は不明のままである。

9. 小野向畠A遺跡（遺跡番号 422009）：変更無し

小野集落の北端、子撫川左岸にあって、小野向畠B遺跡とは林道五位・小野線を挟んで向かい合って位置している。山林内に立地しており、過去に縄文早期のものと考えられる有舌尖頭器が採集されている。

10. 小野向畠B遺跡（遺跡番号 422010）：変更無し

小野向畠A遺跡よりも子撫川に近く、下段に位置する。現況は、耕作地をわずかに残すものの、杉の苗木等が植えられており、将来山林と化すものと思われる。ここからは、昭和42年5月にナイフ形石器や石刃が採集されており、旧石器時代の遺跡とされている。

11. 小野北遺跡（遺跡番号 422011）：変更無し

小野向畠A・B遺跡とは子撫川、県道小野・上渡線を挟んだ対岸に位置し、舌状に張り出した丘陵頂部の標高160m付近に位置している。現況は山林であり、時代については不明である。

12. 小野御坊平A遺跡（遺跡番号 422012）：変更無し

小野集落の西側、子撫川右岸によって裾部を削られる丘陵の頂部の山林内に位置している。小野御坊平B遺跡とは隣接しており、A遺跡の方がより丘陵端部に近い。過去に縄文土器が採集されている。

13. 小野御坊平B遺跡（遺跡番号 422013）：変更無し

小野御坊平A遺跡の西側に隣接しており、背後は急峻な斜面が迫っている。過去に旧石器、縄文土器、須恵器が採集されている。

14. 小野南遺跡（遺跡番号 422014）：変更無し

子撫川右岸にあって、小野集落の南側に位置している。遺跡の北側の高台には八幡宮があり、遺跡内の家屋周辺では田畑が営まれている。同一平坦面上にあって子撫川がヘアピン状に取り巻いた南端部の畑では近世土師器片が採集されている。

15. 小野上平A遺跡（遺跡番号 422015）：変更無し

小野集落の南西部にあり、子撫川左岸に向けてせり出した舌状の丘陵先端部に位置している。小野南遺跡とは子撫川を挟んだ対岸の位置にあり、周辺には複数の遺跡が点在している。小野集落における主要耕作地のひとつといえる。現地は、比較的大きな面積をもつ平坦面であるが、大半は荒廃しており、僅かな畑が営まれているだけであった。丘陵頂部に至る道も、当時は軽トラックが進入していたようであるが、既に機能を果たすものではなかった。過去に縄文土器が採集されている。

16. 小野上平B遺跡（遺跡番号 422016）：変更無し

小野上平A遺跡と同じ丘陵上にあって、丘陵が谷部に入り込む入り口近くにある。小野上平A遺跡からみると西側斜面に位置する場所にあたり、昔は畠が営まれていたようであるが、現在は植林されていた。過去には、A遺跡と同様に縄文土器が採集されている。

17. 小野丸山上段遺跡（遺跡番号 422017）：変更無し

小野丸集落の西側、子撫川の右岸にあって、小野上平A遺跡・小野上平B遺跡とは子撫川を間に挟んで対峙している。子撫川が大きく迂回する場所に張り出した舌状の部分に北から上段・中段・下段遺跡として遺跡範囲が設定されている。このうち、小野丸山上段遺跡は、子撫川から離れた最も北側に位置して背後の山間地に連なっており、県道小野上波線が中段遺跡との間を走っている。この遺跡からは、縄文時代中期の土器や石器が出土したとされており、昭和50年には県道拡幅に伴う調査が実施されている。

18. 小野丸山中段遺跡（遺跡番号 422018）：変更無し

小野丸山上段遺跡とは県道を挟んだ南側に立地している。遺跡の現状は畠地であるが、遺跡の範囲外にあたる西側に一段下がった場所には水田が存在している。この遺跡からは旧石器時代の尖頭器や縄文中期の土器が出土したとされており、上段遺跡と同様に昭和50年に調査が実施されている。

19. 小野丸山下段遺跡（遺跡番号 422019）：変更無し

遺跡は、連続する3遺跡の中で最も南側にあって、子撫川がヘアピン状に周囲を取り囲んだ平坦面上に位置している。現状はわずかに残った畠を除くと大部分が植林による山林と化しており、地表面の観察を行うのは困難な状態となっていた。過去には梢円形の押型土器が採集されており、縄文早期に遡る可能性を持っている。縄文後期に至る採集遺物には土器や石器が確認されている。

20. 小野ワラビ畠遺跡（遺跡番号 422020）：変更無し

小野丸山上段遺跡とは水田を挟んだ西隣にあって、県道からは1段高い丘陵端部に位置している。ここからは昭和42年5月に搔器、抉入搔器、ナイフ形石器、石刃、小形石刃、剥片石核などの旧石器時代の遺物のほか縄文時代の遺物も発見されている。それらの一部は図化されて福岡町史に掲載されており、本報告書の第4図がそれである。

21. 小野柿畠遺跡（遺跡番号 422021）：変更無し

小野ワラビ畠の西南側にあって、子撫川が南にクランクし西に再びクランクする中間地点の右岸に位置している。旧石器時代の可能性を持つ石器が採集されているようであるが、詳細は不明となっている。昭和50年には、県道の付け替えに伴い遺跡の一部が調査されている。現況は荒廃しており、地表面を観察できる状態ではなかった。

22. 小野遺跡（遺跡番号 422022）：変更無し

小野集落から西に最も離れた場所にあって、遺跡の中央が県道によって分断されている。過去に旧

石器時代のものと思われる剥片石器が採集されているが、時期の特定はなされておらず時代は不明となっている。現況は山林であるが、小野柿畠遺跡と同時期に県道の付け替えに伴い発掘調査が実施されている。

23. 砂尾谷遺跡（遺跡番号 422023）：変更無し

子撫川ダムの北側にあって、林道山川線に沿って砂尾谷、砂尾谷Ⅱ、砂尾谷Ⅲの3つの遺跡からなっている。現地は、石川県境及び小矢部市境に位置しており、これらは周辺の集落のいずれからも相当の距離を有している完全な山の中である。地図の表記などによれば畠が営まれていたようであるが、現状は荒廃して山林に復しており、砂尾谷遺跡も林道東側の山林内に立地している。この付近では、昭和20年頃に石器や上器が採集されており、昭和41年の4月と同43年の5月には福岡中学校社会科クラブで現地調査が行われ、縄文時代中期後半の串田新式に該当する土器や石器が確認されている。福岡町史に記載されている土器の様子は次のようなものである。

「・・・一条の隆線の上に刻み目が無造作につけられた無文のものや、ゆるやかな沈線と点列文のある黒褐色の薄い土器片、縄文や条線のある黄褐色のもの、底部に網代文のある赤褐色の土器片、葉脈状文、条線文、刺突文、貝殻文などが施文された土器片數十個とともに石器が発見された。」現在、これらの遺物は福岡歴史民俗資料館に収蔵されている。

24. 砂尾谷Ⅲ遺跡（遺跡番号 422024）：変更無し

砂尾谷遺跡とは林道を挟んだ西南に位置しており、両遺跡の間の谷部分が林道の通過する道となっている。子撫川ダムに合流する川の右岸にあって、現況は山林となっている。過去に採集された遺物は明らかでなく、遺跡の時代は不明となっている。

25. 砂尾谷Ⅱ遺跡（遺跡番号 422025）：変更無し

3つの遺跡の中では一番南側に位置しており、子撫川ダムの流入する小河川との間に位置している。遺跡の現況は山林であり、小河川に張り出した丘陵端部に立地している。過去に縄文晩期の土器が採集されているが、その詳細は不明である。

26. 小野養鶏場遺跡（遺跡番号 422026）：変更無し

小野集落と西明寺集落を結ぶ県道福岡宮島崎公園線と沿いにあって、小野地区の最も東南端部に位置している。その名のとおり養鶏場が営まれている場所である。遺跡のすぐ北側では真佛洞トンネルがある。昭和36年にこの付近を牧場として開墾する際に剥片石器、打製石器、石斧、須恵器の破片が出上している。この時、竪穴住居と考えられる4.0m×2.5mの掘り込みが2箇所、焚き火跡と考えられる跡3箇所等が確認されている。

27. 柄丘北遺跡（遺跡番号 422029）：変更無し

柄丘集落の西側にあって、柄丘遺跡とは南北に並んだ位置関係にある。県道押木・福岡線に面する場所にあって、丘陵の大きな頂部平坦面にあたる。過去に採集された遺物は明らかでなく、遺跡の時代も不明となっている。また、牧場の施設を建てる際に現地の確認を行ったこともあるが、特に遺物

は確認されなかった。

28. とうきおか 柄丘遺跡（遺跡番号 422030）：変更無し

柄丘北遺跡の南側にあって丘陵頂部平坦面の中央付近に位置している。ここも牧場の敷地内となっており、周囲の斜面は山林となっている。東側の眼下には柄丘集落の一部を含む谷あいがあって、見晴らしのよい場所である。

29. とうきおか 柄丘南遺跡（遺跡番号 422031）：変更無し

柄丘集落の南側にあって、県道押水・福岡線に東面する丘陵の斜面に位置している。遺跡は、山林内に所在しており、過去の遺物の採集状況やその内容については明らかでなく、遺跡の時代も不明となっている。

30. せいめいじ じ こうせんとう 西明寺鉱泉裏遺跡（遺跡番号 422032）：変更無し

西明寺集落の北側にあって、柄丘から下ってくる県道押水・福岡線と小野から下てくる県道福岡・宮島峠公園線に挟まれた丘陵上に立地している。この2本の道路は、500mほど南で合流しており、丘陵の端部手前にあたる場所でもある。遺跡の近くは、能越自動車道の建設に伴う土取場となつたことから、景観は一変している。平成8年にはこの土取場に関連する試掘調査が、この遺跡を対象行われたが、追構や遺物は確認されなかった。過去に遺物が採集された話も特に伝わっておらず、現在も遺跡の時代が不明なままでいる。

31. せいめいじ 西明寺遺跡（遺跡番号 422060）：変更無し

南側の西明寺集落の西側背後の丘陵上にあって、山中ではいくつかの平坦面が段々と連なっていることを確認できる。そうした平坦面の基壇状に区画された造成面（5m×4m×0.5m）には、市指定史跡である「西明寺塚五輪塔」が二基並んでいる。この五輪塔は、雨晴沿岸から採れる粗粒砂岩の岩崎石を用いたもので、13世紀末から14世紀初頭の年代が与えられ、県内でも大型で古い部類の五輪塔として貴重である。このうち、右塔は地輪・水輪・火輪があり、左塔は水輪と火輪だけである。風化が著しく、判読は困難であるが、両方の水輪には梵字が刻まれており、右塔は「バ」または「パン」、左塔は「キリーク」と考えられている。この五輪塔は、加賀藩の十村役を務めた杉野家文吉（市指定文化財）にも記述があり、元禄10年（1697）の時点ではすでに現在と同様の姿であったことが記されている。同書には、「西明寺殿石塔」の名で紹介されており、最明寺入道北条時頼の廻因伝説と結び付けられて語られることが多い。一方、「越の下草」では、西明寺と呼ばれた寺院があつて、元弘の乱に際して寺院が滅びたとする伝承が当時の村人に伝承されていたことを紹介している。

32. せいめいじ じ きた 西明寺北古墳群（遺跡番号 422082）：変更無し

北と南に分かれる西明寺集落において、両者のほぼ中間の位置にある谷あいの奥まったところに遺跡が立地している。福岡町は菅笠の産地として有名であり、現在も菅田が存在している。この遺跡が存在している狭くH当たりの良くない谷間で菅田が営まれることが多く、今も比較的大きな区画の菅田が遺跡の面する谷で耕作されている。現地は谷奥にあって、舌状に丘陵端部が突き出した場所の頂

部に古墳が存在していると考えられている。ちなみに、県道を挟んだ大きな谷の東向かい側では、下向田古墳群が確認されている。

33. 西明寺南遺跡（遺跡番号 422087）：範囲変更

南の西明寺集落から西側に延びる比較的大きな谷あいに位置している。この谷あいは圃場整備が行われており、工事の際に珠洲焼の蔵骨器と考えられる壺が完形に近い状態で出土している。遺物は現在福岡歴史民俗資料館に収蔵されている。分布調査では、これまでの遺跡範囲よりも谷奥にあたる場所で珠洲焼の擂鉢の破片を採集できたことから、遺跡の範囲について拡大した。このため新たな遺跡の範囲は南北50m、東西300mとなる。遺跡に時代についてはこれまでどおり中世とした。

34. 沢川ヌゲダ遺跡（遺跡番号 422094）：変更無し

この遺跡は、平成10年に策定された中山間地域活性化プランに基づいて計画された「とやま西部丘陵地区」の圃場整備工事に伴い、平成11年4月に実施した分布調査によって発見された。分布調査では、縄文時代の土器や石器等が近世陶磁器とともにまとめて採集され、TH-03遺跡として遺跡範囲を把握し、同年10月には試掘調査を実施した。試掘調査では、13,950m²を対象にトレンチを27本設定し、372m²を発掘した。調査の結果、縄文時代後期前葉を主体に中期前葉以降の遺物を含む縄文時代の包含層が良好に遺存していることが確認できた。出土遺物には、気屋式土器を主体に、串田新式、前田・岩崎野式土器があり、円盤状土製品、砂岩質の凹石や硬質砂岩製の磨製石斧が出土している。このうち気屋式土器については特徴的な三角形連続刺突文が出現する直前にあたる「いわゆる気屋式土器」も出土している。またトレンチ内では竪穴住居跡の可能性を持つ土坑などを検出している。

Ⅱ 小 結

平成14年度より開始した福岡町域を対象とする詳細分布調査は、今年度で最後を迎えた。5ヵ年にわたる調査により新たに確認された遺跡は8遺跡を数え、遺物の散布状況と地形に基づいた遺跡範囲の見直しも行なったことにより、これまでの遺跡地図の精度をさらに高めることができたものと考えている。但し、本調査は耕作地を踏査対象としており、山林内については改めて調査の機会を設ける必要があることを断っておく。

さて、今年度の調査対象である五位山地区において採集した遺物はこれまで最も少ない27点で、遺跡の変更もわずかに範囲拡大1ヶ所であった。当地区は過去に発掘調査が行われた事例が乏しく、昭和40年前後の時期に発見された遺物採集状況に基づいて遺跡範囲を設定したものが多い地域である。現地を踏査して気がつくのは、放棄されて荒廃した田畠が相当数あるということである。山間部に位置するこの地区は、住民の高齢化と過疎化が町内で最も進行する場所であり、このことは渕ヶ谷小学校沢川分校が昭和56年（1981）に休校、平成15年（2003）には渕ヶ谷小学校も休校となったことが物語っている。したがって、昭和40年代に相次いで遺物が採集され、発見された遺跡についても、現地を確認すると田畠の区画すら確認できないくらいに荒廃が進んだ場所が少なからずあった。

田畠の耕作によって地表面に転がり出てきた遺物を採集する分布調査にとっては、地面が確認できない荒廃地の増加は好ましくなく、採集遺物の低下を招くことになる。今年度分については、出土遺物の傾向から遺跡の特徴を挙げることが困難であるが、一つ挙げるとすればこれまで近世以降に分類してきた陶磁器類があまり確認できなかった状況は、平野部の採集状況と大きく異なっており注目される。集落に近接し多数の人が日常的に田畠に接してきた結果として、平野部では該期の遺物が多く蓄積してきたのに対して、山間部では生活圏と距離を置いたところで営まれている耕作地が多く、陶磁器等を廃棄するような環境になかったことが反映しているのではないかと考えている。こうした違いは、採集対象となる陶磁器類だけでなく、例えば空き缶やビニールの類などの「ゴミ」についても、平野部の耕作地と違ってほとんど見かけなかったことも同様の要因であると思われる。

五位山地区の歴史を振り返ると、福岡町では唯一の旧石器遺跡が所在している場所である。過去に採集された石器は、今も高岡市福岡歴史民俗資料館に収蔵され展示公開されている。また、近年沢川地区で行われた調査により、縄文時代の遺跡が新たに発見されたことは注目される。試掘調査ではあるが、発掘によって気屋式土器を主体とする遺物包含層を良好に遺存する沢川スゲダ遺跡の存在は、能登と越中の中継点となるこの地区的特徴を物語る資料となる。実際、中世末期の前田利家と佐々成政による末森城の戦いでは、沢川地区の在地領主的な存在であった田畠兵衛が前田方につき、佐々方を道に迷わせた結果、勝利の遠因となった話は地元で有名である。この功績により田畠家は、付近一帯の広大な山間部を所有することが許され、蒲政期には山廻役の任を授かっている。

さらに、西明寺地区にある西明寺遺跡内には、県内でも最古級にあたる五輪塔が2基存在している。その時期は、13世紀末まで遡る可能性が指摘されるものであり、周辺の平坦面の存在を考えると廃寺跡が存在していた可能性がある。近くの西明寺南遺跡付近では過去の園場整備において、蔵骨器と考えられる珠洲焼の壺がほぼ完形で出土している。当地区を含む丘陵部については、今後の調査によって新たな遺跡が発見される可能性を有している地域であり、次項で紹介する調査成果のような事例が今後も積み重ねられ、少しづつ地域の歴史が光に照らされることを願う。

第1表 調査遺跡一覧

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	現 況	備 考
1 422001	沢川北遺跡	福岡町沢川	集落	縄文(中期・後期)	宅地、耕作地	変更無し
2 422002	沢川南遺跡	福岡町沢川	散布地	不明	耕作地	変更無し
3 422003	五位遺跡	福岡町五位	散布地	不明	山林	変更無し
4 422004	五位小丸山遺跡	福岡町五位字小丸山	散布地	旧石器、 縄文(前期・中期)	耕作地	変更無し
5 422005	五位陣取り遺跡	福岡町五位字陣取り	散布地	縄文	耕作地、山林	変更無し
6 422006	五位東遺跡	福岡町五位	散布地	縄文?	耕作地、山林	変更無し
7 422007	五位南遺跡	福岡町五位	散布地	不明	耕作地	変更無し
8 422008	五位瀬ヶ谷遺跡	福岡町五位	散布地	不明	耕作地	変更無し
9 422009	小野向畑A遺跡	福岡町小野	散布地	縄文(早期)	山林	変更無し
10 422010	小野向畑B遺跡	福岡町小野	散布地	旧石器	耕作地、山林	変更無し
11 422011	小野北遺跡	福岡町小野	散布地	不明	山林	変更無し
12 422012	小野坊平A遺跡	福岡町小野	散布地	縄文	山林	変更無し
13 422013	小野坊平B遺跡	福岡町小野	散布地	旧石器、縄文	山林	変更無し
14 422014	小野南遺跡	福岡町小野	散布地	不明	宅地、境内地	変更無し
15 422015	小野上平A遺跡	福岡町小野	散布地	縄文	耕作地、山林	変更無し
16 422016	小野上平B遺跡	福岡町小野	散布地	縄文	耕作地、山林	変更無し
17 422017	小野丸山上段遺跡	福岡町小野	散布地	縄文(後期)	耕作地、山林	変更無し
18 422018	小野丸山中段遺跡	福岡町小野	散布地	旧石器、縄文(中期)	耕作地、山林	変更無し
19 422019	小野丸山下段遺跡	福岡町小野字丸山	散布地	縄文(早期・後期)	耕作地	変更無し
20 422020	小野ワラビ遺跡	福岡町小野字ワラビ	散布地	旧石器、縄文	耕作地・山林	変更無し
21 422021	小野柿畠遺跡	福岡町小野字柿畠	散布地	縄文	耕作地・山林	変更無し
22 422022	小野遺跡	福岡町小野	散布地	不明	山林	変更無し
23 422023	砂尾谷遺跡	福岡町砂尾谷	散布地	縄文(中期)	山林	変更無し
24 422024	砂尾谷Ⅲ遺跡	福岡町砂尾谷	散布地	不明	山林	変更無し
25 422025	砂尾谷Ⅱ遺跡	福岡町砂尾谷	散布地	縄文	山林	変更無し
26 422026	小野要場遺跡	福岡町西明寺	散布地	縄文・中世	牧場	変更無し
27 422029	板丘北遺跡	福岡町板丘	散布地	不明	山林	変更無し
28 422030	板丘遺跡	福岡町板丘	散布地	縄文	宅地・兼種地	変更無し
29 422031	板丘南遺跡	福岡町板丘	散布地	不明	山林	変更無し
30 422032	西明寺鉢泉裏遺跡	福岡町西明寺・板丘	散布地	不明	山林	変更無し
31 422060	西明寺遺跡	福岡町西明寺字里口	寺院?	中世	山林	変更無し
32 422082	西明寺北古墳群	福岡町西明寺字里口	古墳?	古墳?	山林	変更無し
33 422087	西明寺南遺跡	福岡町西明寺	散布地	中世	耕作地	範囲変更
34 422094	沢川又ヶ遺跡	福岡町沢川字北谷	集落	縄文(中期・後期)	耕作地	変更無し

参 考 文 献

福岡町史編纂委員会 1969 「福岡町史」福岡町役場

山木 善次 1988 「手乃郷の今昔」

栗山 雅夫 2001 「富山県福岡町沢川地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書」福岡町教育委員会

栗山 雅夫 2003 「富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告」福岡町教育委員会 未以後、Pまで続刊。

III 淵ヶ谷地蔵とコの字形土壘【参考資料】

位 置

淵ヶ谷地蔵は了撫川上流の左岸、五位集落を北西に見おろす山頂にある。山頂付近の標高は約220m余りで、南北方向の尾根と支丘が交差する小さなピークとなっている。この山頂部の南東側を掘りこんで小さな平坦面を造り、北西側にコの字形の掘り残し土壘を巡らせた、その土壘の上に地蔵が北西側を向いて安置されている。つまり地蔵はコの字形土壘で囲まれた平坦面とは反対方向を向いている。

尾根筋に添って山道があり、山頂付近は向坂とよばれ、「休み場」あるいは「地蔵松」の地名がある。平坦面や地蔵に因む俗称であろう。

地 蔵

地蔵は延命地蔵ともよばれる、片足踏み下げる姿勢である。頭部と舟形光背の上部のほか錫杖頭部、宝珠を欠損するが像容をよく残している。岩座上で坐り、右足を横に折り曲げ、左足を踏み下げる。左掌に宝珠を持し、右手には錫杖を執る。

彌成は厚肉彌で、岩座を立体的に彫出し、踏み下げた左足の指は長く、平坦面に足を置く。その下は摩滅して不明確だが蓮台の可能性がある。裳裾は岩座にかかり、襞を刻みこむ。衣文は胸元を大きくあけた四条の襞で表し、両袖の袂は三条の襞をV字状で側面に彫出する。錫杖は光背と一体で背が高く、錫杖頭の頂部形状は欠損し不明だが、左右に三個ずつの環がある。地蔵と光背正面側は平滑に仕上げ、光背の裏側は荒い凹突を残す。底面はほぼ水平で光背は約5度ばかり前傾する。

現存する総高は54cm、最大幅37cm、奥行26cmであるが、欠損部も含めた推定総高は約68cmくらいになろう。用材は石灰質シルト岩で微粒砂岩、あるいは敷田石とよばれているものである。

コの字形土壘

土壘の規模は上部外辺で幅約9m、左袖長約4m、右袖長約7mであり、上部外辺から左袖裾までは約7.5m、右袖裾までは約8.5mと平面ではコの字形となる。土壘の上幅は幅1~2mと一様ではなく、高さは上壘中間部の内側で約1.5m、外側で約1.3mの規模である。

土壘で囲まれた内側の平坦面は奥幅約4.5m、奥行約6.5mで、上壘前面での前幅は約6mである。この平坦面は土壘裾から前面へゆるく傾斜し、さらに傾斜を変えて下り約5mばかりで山道と接する。

コの字形土壘は内側の平坦面を掘りこんだ掘り残し土壘状であるが、上壘外側の裾に緩傾斜部分が巡ることから、盛土もなされているのであろう、上壘と平坦面の中軸線は北西~南東方向になる。

コの字形土壘の類例は、氷見市福積城跡から阿尾島尾山砦跡にかけて13基が存在し阿尾川流域を意識した防禦ラインを構築した戦国期の遺構とみられているが（氷見市史の資料編五考古2002）、当土壘より小規模で土壘高さも低い。そのほか県東部の城跡に単独例がある。

地蔵とコの字形土壘との関係

中世の片足踏み下げる地蔵は県西部で50軒近くが知られており、最も古くかつ優れた彌成の地蔵に南砺市安房の安居寺地蔵があり、鎌倉時代の造像である。これに続き14世紀代を中心に片足踏み下げる地蔵が増加し、その分布は氷見を中心に能登から、五箇山にまで拡がりをみせる。しかもその殆どが用

材に蘇田石を使用している。

淵ヶ谷地蔵は像容にみられる流動的な衣文や衿にみられるV字状彫の彫成は、他の片足踏み下げ地蔵と共に通るものであり、むしろ踏み下げた足を蓮台上に置く可能性がある彫出は、安居寺地蔵にあって他では未確認の現状から注視されるものであり、安居寺地蔵に後続する14世紀前半代と推定する。

ところで土壇上にあり、かつ土塁で囲まれた平坦面とは反対方向を向いて置かれている地蔵は当初からの位置ではなく、後世に移設されたとみるべきであろう。それでは地蔵の旧地はどこであろうか。推定地としては先づコの字形土塁が囲まれた平坦面で、小堂内に安置されていたとの見方ができ、次に五位周辺や子撫川流域の寺（社）跡との見方もあろう。いずれにせよ風雨にさらされると風化が進みやすい蘇田石の石仏が一部を欠損しているとはいえ、彫成がよく分かるほどに残っているのは一時的にも堂内にあったものと思われる。

コの字形土塁内の平坦面は小堂を設置する広さとしては遜色なく、山道からの配置も適切だが、むしろ問題はコの字形土塁が戦国期の城砦と関連した施設であるか否かにかかっている。立地としては五位集落や子撫川流域をみおろす格好の位置にあり、北麓には佐々成政との伝承をもつ陣取山の地名がある。しかし陣取山は城砦としての構造は不明であり、周辺の山中に関連構造も知られていない。そうした状況から見る限り、このコの字形土塁は城砦との関連施設との見方は低くなろう。

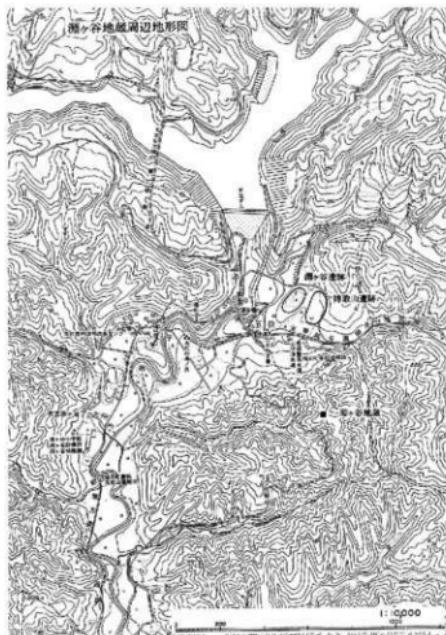
一方、周辺の寺（社）跡としては中世にさかのぼる寺伝をもつ小野の西照寺がある。その旧地である御坊山からは古代の須恵器片が採集されているが、関連は不明である。また、小野養鶏場跡でも須恵器があり、古代から周辺山地への進出がみられるものの中世の寺（社）跡は関連地が不明である。

以上からみて、淵ヶ谷地蔵は背後のコの字形土塁に囲まれた小堂内にあった可能性を指摘できるが、そうであれば欠損した地蔵の頭部や光背もそこに残存している可能性もある。今回の調査で地蔵の回りから2枚の寛永通寶が見つかった。宮田進一によれば何れも古寛永であるという。そこでは近現代の銭貨は未発見であるが、この古銭貨は当地蔵が明治以前からここに移設されており、寶錢として供えられたものであろう。当初の地蔵を安置した小堂がいつまで建っていたか不明である。また何でこの場所かもわからない。その規模や配置、さらには周辺との関わりなど、今後の調査に待つところが多い。

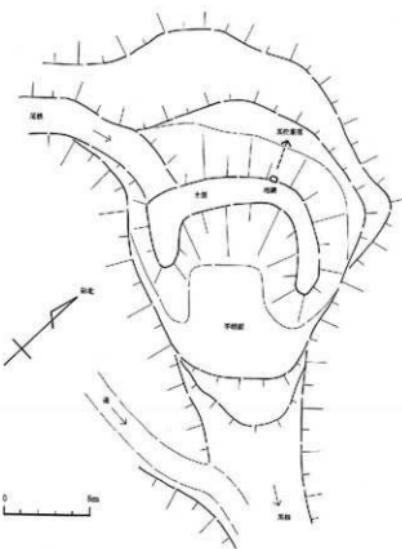
（現地調査：平成18年11月23日 岩崎照栄 西井龍儀 宮田進一 記録：西井龍儀）

参考文献

- 山本善次 1988 「手乃郷の今昔」
- 岩崎照栄 2002 「福岡町の中世・近世の文化」
- 水見市史編纂委員会 2002 「水見市史7資料五考古」



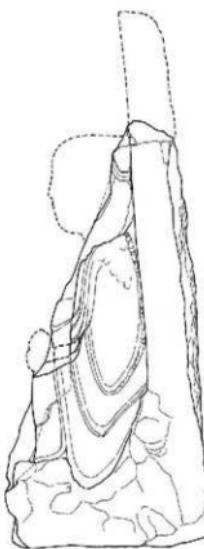
第5図 淀ヶ谷地蔵位置図



第6図 淵ヶ谷地蔵 コの字状土壘路側図



用意	高橋市御所町大字御所(ヤマ主屋)
移名	井上信久(通称・山内地蔵)
石碑	新井賀シル(通称・御所)
説明	御所上で御守を読み下さったお寺。左方に宝塔、右方に御社
誕生	お向寺、御形寺御前、御前御子、元徳院御子、1月御子帳す
歿死	御所、宝塔を矢張り御所上部。御前御子上部を矢張り
死後状況	御所、宝塔を矢張り御所上部。御前御子上部を矢張り



(実測図側面)

旧福岡町五位向坂地内の石仏下採集の寛永通宝

1. 採集場所

- ・小矢部川左岸の丘陵の尾根頂部、旧福岡町（現：高岡市）五位向坂地内の東西に延びるやせ尾根に築かれた「コ」字状土塁の肩に片足踏み下げ地蔵の石仏が安置されている。その石仏の下から寛永通宝が2枚採集された。

2. 寛永通宝

- ・採集された寛永通宝2枚は、17世紀代に鋳造されたものである。
- ・石仏の遺存状態が良いので、お堂などに入っていたものか。そうすれば、石仏が江戸時代にこの場所でお堂に安置された時に、奉納された古銭であろうか？

1 寛永通宝



2 寛永通宝



(表)

(裏)



1

2

1 寛永通宝 1期（1636～1659年）、古寛永

・縦 24.07mm 横 24.03mm

・内郭 縦 5.43mm 横 5.44mm

・厚さ 1.13mm 重さ 3.25g

2 寛永通宝 2期（1668～1683年）、文錢、新寛永

・縦 24.92mm 横 25.22mm

・内郭 縦 6.06mm 横 5.94mm

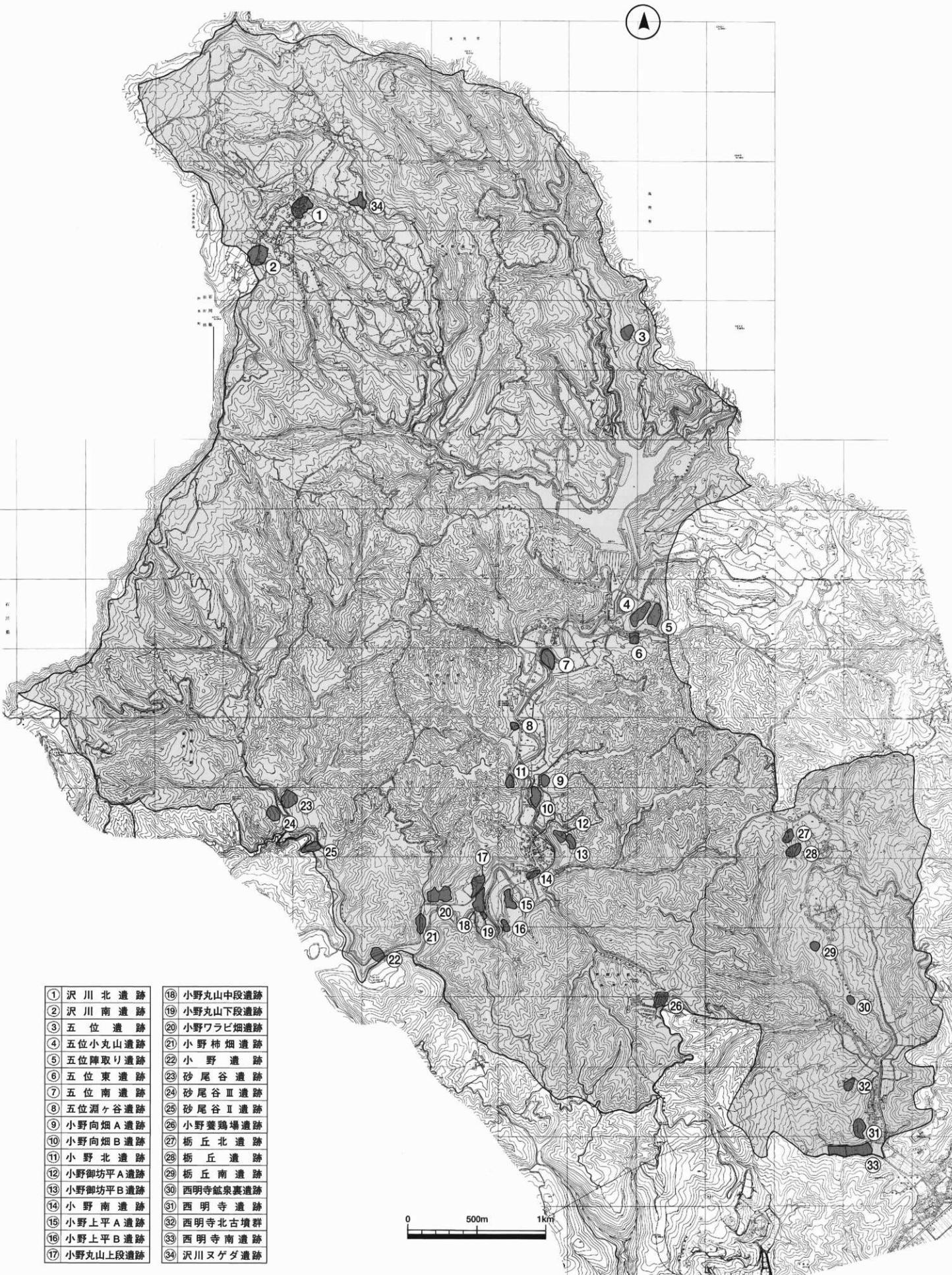
・厚さ 1.08mm 重さ 2.87g

参考：永井久美男 1996 『日本出土銭銅鑄』 兵庫県立総合資料館

第2表 福岡町内遺跡一覧

遺跡番号	名 称	所 在 地	時 代	遺跡番号	名 称	所 在 地	時 代
422001	沢川北遺跡	沢川	縄文 (中期・後期)	422033	赤丸清水山古墳群	舞谷・赤丸	古墳・中世?
422002	沢川南遺跡	沢川	不明	422034	愛宕社跡	舞谷	不明
422003	五位遺跡	五位	不明	422035	鞍馬寺A遺跡	鞍馬寺	不明
422004	五位小丸山遺跡	五位字小丸山	旧石器、縄文 (前期・中期)	422036	鞍馬寺畠田遺跡	鞍馬寺	中世・近世
422005	五位陣取り遺跡	五位字陣取 り	縄文	422037	赤丸浅井神社古墳	赤丸	古墳
422006	五位東遺跡	五位	縄文?	422038	赤丸西遺跡	赤丸	不明
422007	五位南遺跡	五位	不明	422039	浅井城跡	赤丸字古屋	中世
422008	五位瀬ヶ谷遺跡	五位	不明	422040	古村遺跡	赤丸	古墳
422009	小野向畑A遺跡	小野	縄文(早期)	422041	舞谷ノリコシ古墳群	舞谷	古墳
422010	小野向畑B遺跡	小野	旧石器	422042	舞谷イケンダ古墳群	舞谷	抹消
422011	小野北遺跡	小野	不明	422043	城ヶ平横穴墓群	舞谷字城ヶ 平	古墳
422012	小野御坊平A遺跡	小野	縄文	422044	赤丸城跡	馬場・舞谷	中世(室町)
422013	小野御坊平B遺跡	小野	旧石器、縄文	422045	舞谷觀音堂古墳群	舞谷	古墳
422014	小野南遺跡	小野	不明	422046	總持寺跡	舞谷	中世
422015	小野上平A遺跡	小野	縄文	422047	城ヶ平古井戸遺跡	舞谷字城ヶ 平	中世
422016	小野上平B遺跡	小野	縄文	422048	城ヶ平遺跡	舞谷	不明
422017	小野丸山上段遺跡	小野	縄文(後期)	422049	馬場遺跡	馬場	古代・中世・ 近世
422018	小野丸山中段遺跡	小野	旧石器、縄文 (中期)	422050	馬場古墳群	馬場	古墳
422019	小野丸山下段遺跡	小野字丸山	縄文 (早期・後期)	422051	加茂神社古墳群	馬場	古墳
422020	小野ワラビ畑遺跡	小野字ワラ ビ畑	旧石器、縄文	422052	馬場東砦跡	馬場	中世
422021	小野柿畑遺跡	小野字柿畑	縄文	422053	鷲城跡	加茂・鳥倉	中世
422022	小野遺跡	小野	不明	422054	加茂横穴墓群	加茂字大松 平	古墳
422023	砂尾谷遺跡	砂尾谷	縄文(中期)	422055	加茂遺跡	加茂	不明
422024	砂尾谷III遺跡	砂尾谷	不明	422056	鳥倉遺跡	鳥倉	不明
422025	砂尾谷II遺跡	砂尾谷	縄文	422057	土屋古墳群	土屋	古墳
422026	小野養雞場遺跡	西明寺	縄文・中世	422058	下向田古墳群	下向田	古墳
422027	花尾A遺跡	花尾	不明	422059	下向田遺跡	下向田	中世
422028	花尾B遺跡	花尾	不明	422060	西明寺遺跡	西明寺字重 口	中世
422029	板丘北遺跡	板丘	不明	422061	上向田古墳群	上向田	古墳
422030	板丘遺跡	板丘	縄文	422062	上野北A遺跡	上野	縄文
422032	西明寺鉢泉裏遺跡	西明寺・板 丘	不明	422063	上野北A遺跡	上野	縄文
				422064	上五位神社古墳群	上野・上向 田	古墳

遺跡番号	名 称	所 在 地	時 代	遺跡番号	名 称	所 在 地	時 代
422065	平尻山古墳群	上向田・上野	古墳	422087	西明寺南遺跡	西明寺	中世
422066	上野古墳群	上向田・上野	古墳	422088	SUD-01遺跡	西明寺字表山	抹消
422067	上野B遺跡	上野	縄文(前期・中期)	422089	下老子北遺跡	下老子	抹消
422068	上野A遺跡	上野字岡山	縄文(前期・中期)・弥生・古墳・古代	422090	大滝芋田遺跡	大滝	古代・中世・近世
422069	上向田終塚	上向田	中世(13世紀)	422091	上裏中田遺跡	上裏・裏島	古代・中世・近世
422070	上野西古墳群	上向田	古墳	422092	TH-01遺跡	沢川字北谷	抹消
422071	宝性寺塚	上裏字古町	不明	422093	TH-02遺跡	沢川字北谷	抹消
422072	下老子笠川遺跡	下老子・高岡市	縄文晩期・弥生・古墳・古代～近世	422094	沢川ヌグダ遺跡	沢川字北谷	縄文(中期・後期)
422073	江尻遺跡	江尻	縄文(晚期)・弥生(中～後期)・古墳(前期)・中世～近世	422095	TH-04遺跡	沢川字下向	抹消
422074	蓑島遺跡	蓑島	縄文(晚期)・弥生(後期)・古墳(前期)・中世・近世	422096	HM-01遺跡	上裏・蓑島	抹消
422075	矢部宝来遺跡	矢部	古墳(前期)	422097	蓑島前川原遺跡	大滝・蓑島	弥生・中世・近世
422076	矢部神宮寺跡	矢部字沖野	不明	422098	大滝島田遺跡	大滝	中世・近世
422077	矢部田中遺跡	矢部字田中	弥生・古代・中世・近世	422099	HM-04遺跡	蓑島	抹消
422078	矢部仲野遺跡	矢部字仲野	古代・近世	422100	寺谷内遺跡	加茂	中世
422079	間野大滝遺跡	間野	中世～近世	422101	舞谷鏡王塚	舞谷	中世
422080	石名田木舟遺跡	木舟・小矢部市	弥生・奈良・平安・鎌倉・室町・近世	422102	土曾兵衛館跡	下老子	中世
422081	木舟城跡	木舟字西堀	中世・近世	422103	赤丸麻烟島古墳群	赤丸	古墳
422082	西明寺北古墳群	西明寺字里口	古墳?	422104	本領遺跡	本領	古代・中世・近世
422083	赤丸古村遺跡	赤丸	抹消	422105	二歩遺跡	一歩二歩	古代・近世
422084	木舟北遺跡	木舟	古代・中世・近世	422106	舞谷横穴墓群	舞谷(麻烟島)	古墳後
422085	大滝遺跡	大滝	古墳・古代・中世・近世	422108	舞谷前田島遺跡	舞谷	中世
422086	馬場西若跡	馬場	中世	422109	三日市西遺跡	三日市	古代・中世・近世



第5図 2006年度分布調査成果図(1/18,000)



写真図版1 航空写真(1) ※1947年撮影（五位山地区全景）



写真図版2 航空写真(2) ※1953年撮影（沢川集落全景）



子撫川右岸の耕作地(南から)



沢川ヌケダ遺跡付近(西から)



愛宕神社付近(西から)

写真図版3 遺跡写真(1) 沢川地区



五位集落付近(北から)



五位小丸山遺跡(西から)



五位淵ヶ谷遺跡(東から)

写真図版4 遺跡写真(2) 五位地区



小野集落付近(北から)



小野向畠B遺跡(西から)



小野小丸山上段遺跡(南から)

写真図版5 遺跡写真(3) 小野地区



栃丘集落付近(北から)



八幡宮前付近(北から)



栃谷川右岸の耕作地(南から)

写真図版6 遺跡写真(4) 栃丘地区



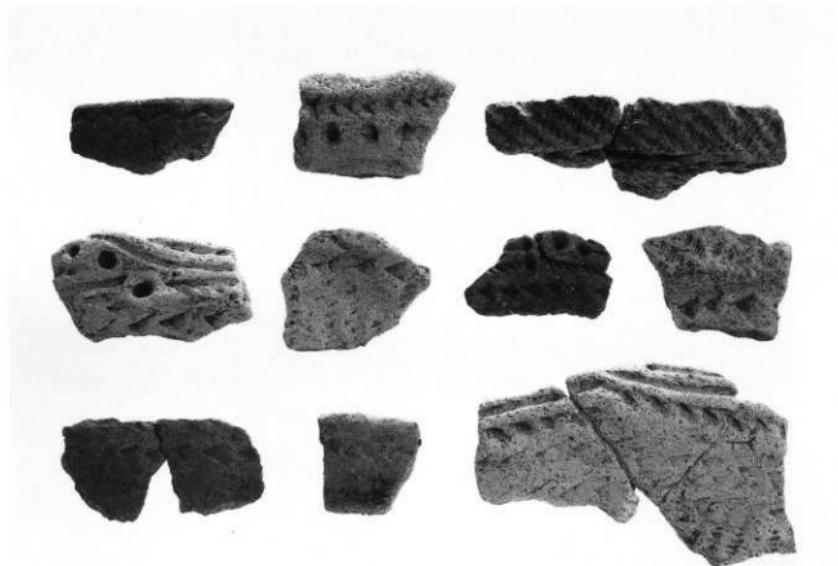
西明寺集落付近（東から）



西明寺南遺跡（東から）



西明寺遺跡（南から）
※山中に西明寺塚五輪塔



写真図版8 遺物写真 上段：沢川ヌゲダ遺跡出土遺物（気屋式土器）※縮尺約1/2 下段：西明寺塚五輪塔（13世紀代）

報告書抄録

富山県 高岡市
福岡町埋蔵文化財分布調査報告V

発行日 平成19年3月31日

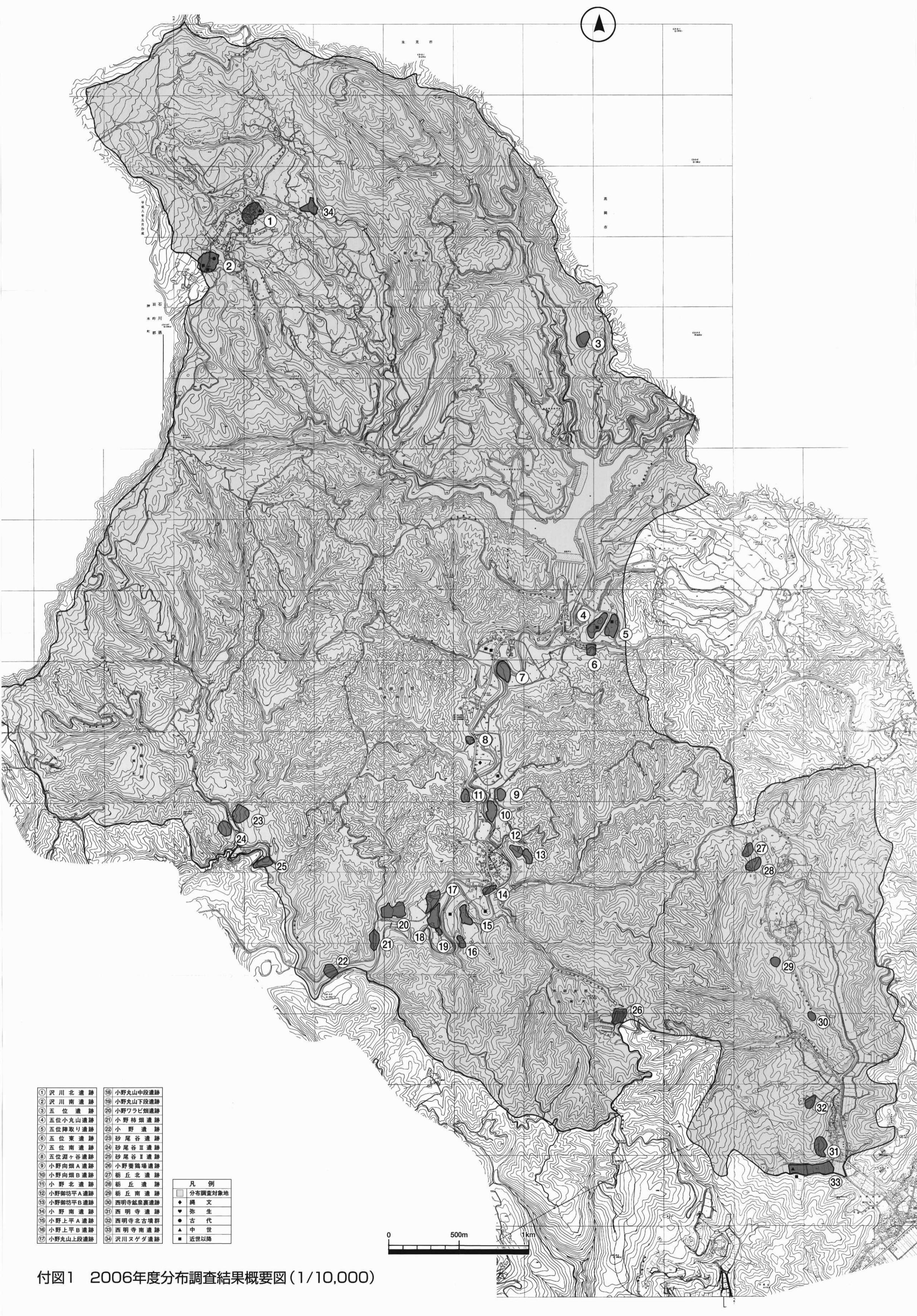
編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601

富山県高岡市広小路7番50号

TEL 0766-20-1463

印 刷 ヨシダ印刷株式会社



付図1 2006年度分布調査結果概要図(1/10,000)

